



### 有松まちづくりの会役員会（12月28日）

日本遺産関係諸事業の進捗状況について、主にワークショップやセミナーについての報告がありました。後日全企画終了後に成果の発表が予定されています。また、10月11日と2ヶ月間行われた「有松きっぷ」の様子についても、下記のような報告がありました。

「多くの皆さんが『有松きっぷ』を利用して有松に訪れてくださいました。今年もしほり体験をされる方が多かったのですが、昨年までとは少し違い、本当にやりたい人が遠くてもやって来てくださいました。お礼の手紙をくださる方もありました。」

### 有松天満社 元旦祭（1月1日～3日）

例年とは様変わりです。参道の鳥居には消毒液が用意され、手水鉢では垂れ流しの手洗い方法に変更されていました。一昨年より開門時間も早められる対策がとられ、“密”が避けられるよう配慮されていました。

感染拡大で分散参拝や外出自粛の人も多いようです。例年なら下の石段をはみ出す行列も、今年は半分ほど。参拝者を見ると感染予防のためでしょうか、年配者は余り見かけません。若い人のグループや若いご家族がほとんどでした。

年が改まると「ハッピーニューイヤー」の声。幸い心配された雪は、夕方に舞っただけでした。記者が訪れた深夜には穏やかな時間が流れていました。



上の広場の様子

寄稿 天満社の滴水瓦(てきすいかわら) 山村 幸雄

滴水瓦とは、豊臣秀吉の朝鮮出兵の時、朝鮮からもたされた軒先瓦のことです。特色は平瓦と違い雨水の切れをよくするため中央部が舌状に垂れている。更に軒裏隙間に水が染込まないように微妙に角度がつけてあり、軒の劣化を防いでいる。

朝鮮に出兵した武将が現地の瓦職人を連れてきて、自分の城に滴水瓦を施した。慶長年間(1596～1615)、江戸初期にはやり姫路城、和歌山城、熊本城、松本城などにある。

有松には滴水瓦がかなり存在しているが、近隣の町にはほとんど見当たらない。多くは、有松東海道の町並みの屋根に飾りのようにある。ある屋敷では、瓦を葺き直す時に昔の様式にしたそうである。有松で一番豪華な屋根は、天満社にある。滴水瓦も存在し、姫路城のそれと比べても見劣りしない。天満社社殿は有松の象徴的建造物の一つである。



天満社の滴水瓦

## 定期観光バスに有松登場

日本遺産のまち"有松"を知っていただく絶好の機会が訪れました。名古屋定期観光バスのコースに有松が加えられました。

設定期間 11月28日～2021年2月7日の土曜・日曜日  
《午後》 熱田神宮・有松地区散策コース  
JR名古屋駅ー熱田神宮ー有松町並み散策ーJR名古屋駅

コロナ禍の中、参加者が少数という日もありますが、とにかく熱心に見学されます。散策時間の1時間があったという間に過ぎるといった感じです。ガイドの有松あないびとの会の方にお伺いすると「少人数の案内で、よりお客様の興味・関心に寄り添った案内ができます」とのことでした。

## 成人式 (1月11日)

晴天のもと、白い息を吐き出しながら新成人の皆さんが会場である有松中学校に集まりました。新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮し、式典は一部・二部に分けて開催されました。例年とは様変わりの形での実施となりました。式内容も来賓挨拶が省略されるなど簡素化されたものになりました。

会の運営を担った有松・桶狭間・南陵学区区政協力委員会の皆さんが、「三密」を避けるために様々な工夫をされているのが印象に残りました。会場では手指や椅子の消毒が行われ、「新たな門出に感染者を出さない」という皆さんの強い思いが伝わってきました。

## 有松あないびとの会総会

(1月19日)

校会館で、感染防止対策をとって総会が開かれました。鈴木会長より「会員が44名になった。更に増やしていきたい。」と挨拶がありました。また、新会長に加藤明美さんが選出されました。抱負をいただきました。

「有松あないびとの会は2003年から活動を始め、現在は町並みのご案内や岡家住宅の公開をさせていただいております。藍色の絞り法被の私達に是非お声がけください。

そして、あなたもあないびとになりますか？会員募集中です。」

更なる飛躍が期待される挨拶でした。

名古屋のオススメ観光名所をご案内!  
名古屋定期観光バス

EVENT  
2020.11.28(土)  
2021.2.7(日)



見学後、参加者との別れ



校門で記念撮影をする  
新成人の皆さん

## 投稿 有松スケッチ 番外編

湯地昭夫氏



藍染川と山与遊歩道

## 外国人観光客向けガイド勉強会(12月1日)

### II 「ガイドとゲストと一緒に楽しむガイドツアーのコツ」

日本在住の女性ツアーガイド 山口レナさん(写真左)

名古屋に住んで1年半。大好きな名古屋めしを外国人観光客にアピールしたいと、ツアーを組んでいます。何よりもツアーの目的を意識することが大切と思っています。そうすることでゲストを満足させられるだけでなく、ゲスト自身が周りの人にそのツアーを勧めてください。また、案内する上でガイドの力量に応じて達成目標を意識することも大事だと思います。

初級：語学力の向上はもちろん、情報をき

ちんと覚え写真も用意して案内する。

中級：ゲストの質問にきちんと答えるなど相手に合わせた案内をする。クイズも

上級：ゲストの興味を知り、興味に合わせた案内をする。身振り手振りを使っての話しやストーリーを語りたい。

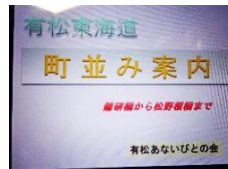
前号で紹介したヨピス エリザベスさんも今回の山口レナさんも、笑い声の絶えない勉強会でした。外国人に対してばかりでなく、普段の案内にも活かせるアイデアが満載されたご提言をいただきました。



### 「町並み案内」動画、配信される

緑区地域力推進室の”みどり☆動画ひろば”に有松あないびとの会で制作した”町並み案内”の動画が3月31日まで配信されています。東海道の鎌研橋から松根橋までを綺麗な映像と分かりやすい語りで紹介してあります。ぜひご覧ください。

(放映時間23分)



## ありがとうそしてさようなら 訃報届く

年末、有松の恩人であるお二人の訃報が相次いで届きました。

### ○ 12月19日 伝統工芸士 中島鈴枝さん

親子2代に渡る突き出し鹿の子絞りのスペシャリスト。絞会館の開館以来ずっと実演をされてきました。過去のインタビューで「色々な皆さんや実習仲間と親しくおしゃべりしながら過ごすのが何より楽しい」との言葉を残しています。竹田嘉兵衛氏は「有松で一番マスコミに取り上げられた方。中島さんの顔=有松と言っていいほどの品の良いお方でした。」と懐かしんでおられました。享年101歳。



実演中の様子

### □ 12月20日 テキスタイルデザイナー ジャック ラーセン氏

氏は平成4年(1992)に開催された国際絞り会議で基調講演をされ、その後も数々の助言をしていただきました。当時絞り会議の実行委員長をされていた竹田嘉兵衛氏は次のような思い出を語って下さいました。

「ラーセン氏のニューヨークの自宅にお伺いしたとき、屋根が伊勢神宮を模したものになっていて・・・会議では、有松の絞りの方向性を示して下さいました。生活に根ざした日常使いのできるものを作ろうと仰って下さいました。」



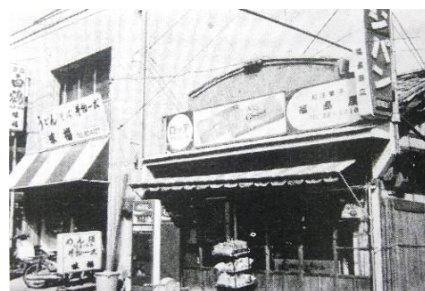
国際絞り会議の様子

## 1 埋もれるまち

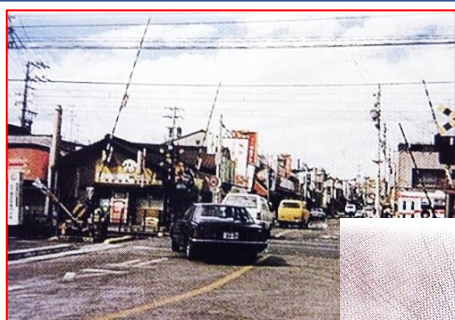
私は有松に住んでちょうど50年になります。素晴らしいまちになったと思います。

有松に来たのは大阪万博が開かれた年(1970)。当時の有松駅には名古屋方面の駅舎に喫茶店があり、改札の横にはちょっとしたショウウィンドウがあって、その中にいくつかの絞り製品が展示してありました。展示というよりは何となく置いてあるという感じでした。平面の旧式改札で、電車が発車しそうなときは改札を素通りして飛び乗った記憶があります。

東海道はそんなに車の多い時代ではなく、長閑(のどか)でした。今の絞会館の場所には緑区役所有松支所がありました。そして、生活に必要な個人商店がいくつもありました。豆腐屋、うどん屋、仕出し屋、食料品店、銀行、郵便局、内科、銭湯、床屋、米屋、文具裁縫用品などが東海道を中心にありました。



有松の町並み 昭和50年頃

踏切 昭和60年頃 と  
有松駅 昭和62年

昭和51年に民家調の駅舎に建て替えられた。黒屋根・白壁・海鼠壁の外観は有松の町並みに合うと好評でした。

## 催事・行事の予定

- 2月 7日(日) 09:00 有松東海道青空市 有松商工会周り 青空市運営委員会
- 2月15日(火) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 2月20日～3月21日 有松福よせ雛さんぼ道 有松東海道一带 同実行委員会
- 2月22日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン (中止)
- 2月28日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会 (中止)

新型コロナウイルスの影響により変更となる場合があります。



発行者:竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者:加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676

090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

## 有松の誰もが知る町医者 棚橋龍三先生と音楽

つつみ病理診断科クリニック院長 堤 寛

棚橋龍三先生の長女棚橋恭子さんは、今は亡きお父様のフルートの音色の再現を心待ちにされています。80歳を過ぎた今も有松にお住まいです。2020年8月中旬、「一度見てほしいものがある」と言われ、古い楽器を持ってこられました。堤がオーボエを吹くことから相談にみえたのです。

「これはオーボエかしら？」「いいえ・・・バロックフルートですね。」とりあえず、フルート専門の楽器屋に電話で問い合わせ、一度見てもらうことにしました。その専門店に持っていくと、スタッフがフルートの歴史図鑑のようなカタログを持ってきてくださり、19世紀前半のフランス製のフラウト・トラヴェルソであることが判明。修理するには古楽器修理の専門家がよいということになり、プロにフルートを搬送することにしました。龍三先生がお持ちになっていた楽器ですが、恭子さん曰く「どういう経緯で手に入れ、どう使われていたのかは聞いたことなく・・・」とのこと。

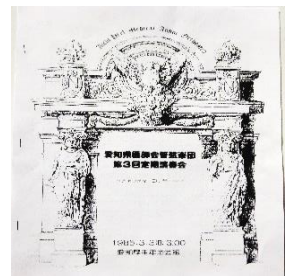
棚橋龍三先生は、かつて音楽を愛し、バイオリンとチェロの名手でした。舞台上でサキソフォーンを吹く写真が残されていることから、このフルートでも演奏されていたかもしれません。大正14年(1925)から現在の名古屋大学医学部のオーケストラ、1980年代には愛知県医師会のオーケストラの創設に関わり、支援しました。その偉業に深く感動します。今日では、音楽が人々を癒やし、誰にとっても平等に感動できる、平和なムードをつくるのに最適な手段であることを、龍三先生はこの時代に既に先見的に察知されていたのではないのでしょうか。

2020年10月22日、恭子さんは修復されて届いたフルートを持って・・・「本当に直って良かった・・・」と。長きに渡って、棚橋邸の2階に眠っていたフルートに光を当てることができました。恭子さんは、亡きお父様に再会するかのように、お父様の遺品を手にしていました。

シリーズ ひと



修理後のフルート  
と棚橋恭子さん



定期演奏会パンフ

### 「二人の先輩をしのぶ」 愛知県医師会管弦楽団第3回定期演奏会パンフ(1985.3.3)より

棚橋先輩は、大正14年大学予科に入学と同時に洋楽部に入りヴァイオリンを担当。各地に演奏旅行に出かけた。昭和4年医学部入学と同時にチェロに持ち替える。チェロの名手で、テープのない時代録音を残せなかったのが残念でした。昭和56年愛知県医師会で医師会管弦楽団の創立が計画されたときは相談役として活躍した。棚橋先輩の名古屋に残した音楽文化への貢献度は知る人ぞ知るである。70歳の時癌の手術を受け、その後10年間は健康を管理しながら、有松小学校のPTA会長を務めた。

### 棚橋龍三先生とは？

棚橋龍三先生は、無医村だった有松に昭和8年(1933)大学医局から派遣され、大井桁屋さんの住宅で最初の診療所を開業しました。内科を中心に外科・眼科、地元有松小学校の校医など、この地の医療を約50年に渡って担われ、昭和59年に79歳で亡くなりました。戦時中、献身的に捕虜の診察・治療にあたられたことは広く知ってほしい事実です。(文責 伊藤総俊)



昭和50年頃の棚橋医院

## 日本遺産企画 有松祭礼と絞り 報告2

今回は、座談会(2020.10.4)での各町の山車についての余り知られていない興味深い話を紹介します。

ゲストコメンテーター 鬼頭秀明

:名古屋市文化財審議会委員

コメンテーター

早川紀雄:西町顧問

山口 弘:中町相談役

司会

本田雅己:東町元囃子方

第39代有松天満社総代長

本田 八棟造の天満社ができて(1824)、有松の元となる祭が始まりました。その頃は中老という絞り屋の中の大店がお金を出し、衣装も毎年作って提供していました。今は文嶺講で運営しています。囃子方の衣装が展示してあります。3町競って着ています。

鬼頭 有松が絞りで栄えたまちだとよく分かります。絞り屋がお金を出した記録は残っていませんが、出すのが当然という感じだったのでは・・今は、山車は町内や保存会で持っているのが普通ですが、有松は昔風の講組織で運営しています。

本田 明治になり有松に山車が現れます。では・・

早川 神功皇后車は明治6年(1873)久七により有松で建造されました。最初のからくり人形は中国の武将“関羽”でしたが、日清戦争の大勝を記念して今の神功皇后・武内宿禰・前人形のべろ出し人形に替えられました。名工土井新七の制作です。山車には天満社の紋の”梅鉢”が付けられています。

鬼頭 西町の山車は金具や幕の文化財価値が高いです。金具の専門家に見てもらったら、いい金具で飾られているとのことでした。

山口 唐子車は、現在の内海で回船業を営んでいた5代目前野小平治が嫡男誕生のお祝いとして造られました。名古屋型と知多型が融合され、特に輪掛の螺鈿細工が珍しい。大幕・水引幕とも素晴らしく、中でも水引幕の両端は赤珊瑚でできた房で止められています。貴重なので普段は貸金庫にしまっています。明治8年(1875)、当時1,500円で有松に売られました。

鬼頭 小平治についてはよく分からないのですが、伊勢門水の「名古屋祭」にはそのように書いてあります。尾張藩に多額のお金を貸していた人ですが、江戸時代末からは消息不明です。

本田 布袋車は明治24年(1891)名古屋の玉屋町から買ってきました。延宝2年(1674)に若宮祭で曳かれていたものです。特に、金糸で刺繍された大幕は造られてから200年以上経ち糸のほつれもひどくなってきたので、復元新調することにしました。10年計画で・・今造っています。

鬼頭 布袋車は古い部分をよく残しています。有松の方が丁寧に扱っていたので長く保っています。若宮祭の兄弟車福祿寿車は、激しく扱われていたのでしばしば修理・改造がされました。「名古屋祭」によれば、当時道具屋への売却値は250円。いくらで買ったかは分からない。



囃子方衣装9点:岡家住宅で展示



初代人形”関羽”

唐子車の房



布袋車大幕